

くつろぎの宿



食堂はビジター利用も可能。お母さんたちの心づくしは、しみじみと美味しい



卒業生たちも懐かしい思いを抱いて立ち寄るとか

ピーク時には1500人の児童が通っていたという大佐小学校。それが徐々に減ってしまい、昭和52年にはやむなく閉校した。その後、残された学び舎は集会所や民俗資料館として活用されていたが、利用者の数はなかなか伸びなかった。そこで昭和63年6月、地元出身の方々が里帰りした際に手軽に泊まれる「河辺ふるさとの宿」として再出発することになった。

や浴場、厨房や食堂なども整備した。厨房で腕を振るうのは、地元のお母さんたち。アマゴやニジマス、刺身と塩焼き、シシ鍋、キジすき、山菜料理などで宿泊客をもてなして好評を博している。中でもオリジナル料理のアマゴを使ったつま汁は、素朴な味わいで人気だ。宿のそばを流れる河辺川や風景満点の屋根つき橋など、宿の周囲のたたずまいも故郷の懐かしさいっぱい。すぐそばに「脱藩之日記念館」もあるため、龍馬ファンからも愛されている。

河辺ふるさとの宿



河辺川のせせらぎに耳を傾けながら畳でくつろぎ。学び舎時代の面影を残した懐かしい宿。



大らかな自然に包まれた公共の宿で、鹿野川湖を望みながら温泉でゆるりとくつろぐ。

大洲市交流促進センター 鹿野川荘



湖畔を眺めるワイドビューの浴室は、鹿野川荘の自慢。ぬめりのある湯で肌を磨きたい



高台にある施設は家族旅行やグループ旅行に好評

「大洲市交流促進センター 鹿野川荘」は、鹿野川ダムを見下ろす高台に位置する公共の宿。緑の山並みに抱かれながら、ほっと心とむひとときを過ごすことができる。この宿の自慢は、立ち寄り入浴もできる天然温泉（鉱泉）の大浴場。広々とした浴場内は、鹿野川ダムに向かって二面ガラス張りの大きな窓があり、湖畔の景色を眺めながら湯船で手足をのぼせる。低張性アルカリ性冷鉱泉の泉質は、神経痛や筋肉痛、関節痛、疲労回復や健康増進などの効能が

うたわれており、ややぬめりのある湯は肌あたりが優しい。湯上がり、の肌がしっとりとなめらかになり、「美肌の湯」としても人気。サウナや打たせ湯、サング湯とバラエティ豊かな浴槽も楽しみのひとつ。上品なしつらえの客室は、シングル、ツイン、和室、特別室の4タイプ。アマゴやイワナなど山里ならではの食材でもてなすレストラン、湯上がりのひと時をのんびりとくつろぐことができる休憩コーナーなどの館内施設も充実している。

癒しの湯